

馬島 福岡県北九州市



さくらねこ無料不妊手術事業

2014年12月

13日～14日(手術実施日)

申請者:馬島自治会長西田義治

協力:大切な猫たちプロジェクト in 馬島

申請者：馬島自治会長西田義春

主催：公益財団法人どうぶつ基金

協働団体：馬島住民・TNR-博多ねこ・ライフリレーネットワーク・
一般社団法人にゃんだーガード

期間：12月11日から15日

執刀医(2名)：山口獣医師長 後藤獣医師

処置内容：避妊手術、去勢手術、耳先のV字カット(さくら耳)、3種混合ワクチン、ノミ、ダニ駆除、駆虫(レボリューション)、負傷治療、

対象場所の状況(概要)

離島の漁村で長年にわたって飼い主がはっきりしない猫が増えている。エサを与える住民、観光客、釣り客はいるものの、避妊去勢されていないため発情期の鳴き声や尿臭(スプレー)がひどく、畑やゴミ箱を荒らすほか糞尿の被害もある。エサも十分とは言えず、毎年たくさんの子猫が生まれ、たくさん亡くなっており、ボランティアがエサの支援や里親探しをしようとしていますが、TNRと併行しなければゴールが見えない。島内は高齢のお年寄りが多く、「TNRをしたくてもどうしていいかわからない」「年金暮らしで高額な費用を負担できない。力仕事もままならない」という状況。

協働

馬島住民

全13世帯、住民約40名が暮らす小さな離島です。主に漁業をなりわいとし、猫たちは長年にわたって増えていきました。2名の方が主に猫に餌を与え世話をしています。

大切な猫たちプロジェクト in 馬島

馬島の猫一斉TNRもむけて、有志が立ち上げたプロジェクト

TNR-博多ねこ・ライフリレーネットワーク・一般社団法人にゃんだーガード・個人が参加

準備から実施への流れ

日付	時間	参加者	内容
12月11日		ボランティア 女性5名・男性3名 =8名	猫:捕獲 手術会場設営
12月12日		ボランティア 女性6名・男性4名 =10名	ミーティング 猫:捕獲 手術会場設営
12月13日		ボランティア 女性13名・男性3名 =16名 どうぶつ基金:2名 獣医師:2名	不妊手術
12月14日		ボランティア 女性21名・男性4名 =25名 どうぶつ基金:2名 獣医師:2名	不妊手術 猫:リターン
12月15日		ボランティア 女性11名・男性4名 =15名	猫:リターン 掃除

氏名	捕獲器	キャリー	ケージ	計
NDG		20		20
東部動物管理 センター			24	24
博多ねこ	10	10	10	5
アニマルスクエア 山口	2	4		6
合計	12	34	34	80

手術実績・処置

	オス	メス	計
12月13日	25	20	45
12月14日	16	18	34
合計	41	38	79

処置内容：避妊手術、去勢手術、耳先のV字カット(さくら耳)、3種混合ワクチン、ノミ、ダニ駆除、駆虫(レボリューション)、負傷治療、

執刀医



山口武雄獣医師(左)

後藤ふみひと獣医師(右)



手術会場・猫保管場所



猫保管場所：渡船所の待合室



手術会場：馬島集会場

報道各種



土曜ふおと

●島中から集められ、ケージに入れられた猫。
●手術を終えケージから出る猫（いずれも北九州市小倉北区・馬島で）



島の猫 共存の道



「目は開いていますが、麻酔が効いていて痛くないんですよ。手術は決まっています。10分くらいです」
北九州市沖の瀬邊に浮かぶ馬島で今月中旬、島にいる猫約匹の一斉不妊手術が行われた。

漁業と観光で生計を立てる島の人たちにとって、ネズミを退治してくれる猫は頼もしい存在。しかし、一度の出産で4、8匹の子猫が生まれるため、約40人いる島民の2割ほどまで増える猫の餌や飼料の確保が、飼い主のいない猫のふ

んや農作物被害などの問題が深刻になった。
外での手術は資金や労力の面から難しい……。そんな悩みを知った「大切な猫たちプロジェクト」(福岡市中央区)の竹下雅英さん(49)が現地での手術を指揮。殺処分ゼロを目指す「アムニティ」基金(兵庫県芦屋市)から獣医師2人が派遣され、無料で行った。ボランティアとして手伝った島民の立川由貴さん(40)は「無事終わって、ほっとしました。この活動が住民と猫が共存するモデルになればいいですね」と、手術前と同じようにくつろぐ猫たちに目を細めた。

2014年(平成26年)12月27日 土曜日 18頁 32

島の猫 もう産ませない!!

100匹に急増 共存のため

地元と有志 一斉去勢・避妊

北九州市・馬島

島にはもともと野良猫が約100匹ほどいた。近年、観光客の増加で猫の数が急増。地元と有志が連携し、一斉に去勢・避妊手術を実施した。猫の数を抑え、共存の道を探る。

島にはもともと野良猫が約100匹ほどいた。近年、観光客の増加で猫の数が急増。地元と有志が連携し、一斉に去勢・避妊手術を実施した。猫の数を抑え、共存の道を探る。

TNCテレビ西日本(フジテレビ系)18:00～
「増えすぎたペットをどうするか？ 福岡の島で始まった取り組み」
RKB毎日放送(TBS系)「今日感ニュース」18:15～
「住民40人に猫80匹“猫の島”で考える命」

現場からのお便り

「大切な猫たちプロジェクト in 馬島」のメンバーの方からのお便りを紹介します。

平成26年12月13～14日に福岡県北九州市の離島・馬島で猫79頭の一斉TNRを終え、TNRは猫好きよりもむしろ猫が嫌いな人にこそメリットがあるのではないかと思うようになりました。

TNRからまもなく半年、猫たちのオシッコで目も開けられないほど臭かった渡船所待合室のニオイが随分なくなり、島民の方から「ありがとう」とおっしゃっていただくこともあります。また、手術して発情ストレスがなくなった猫たちは、プロレスごっこのようなじゃれ合いはしますが、流血するような激しいケンカはしなくなりました。島民の方によると「春先に気味の悪い鳴き声がしなくなった」そうで、以前は生傷が絶えなかったオスの成猫の顔に少しずつカサブタができて、会うたびに顔つきが穏やかになっているのが、とてもうれしいです。

島ごとさくらねこTNR

馬島という小さな島の猫を今回の一斉TNR(79頭)と、アフターケア(2頭)で100%の島内の猫にTNRを実施することができた。一斉TNR時にほとんどの猫に手術を行えた要因として、捕獲器を使用せずとも、抱っこしてキャリーバックに直接捕獲できるほど人に慣れている猫が多かったことも、成功要因の一つといえるだろう。島ごとTNRを行う貴重な事例となった。

馬島



公益財団法人どうぶつ基金

大切な猫たちプロジェクト in 馬島

馬島住民
TNR博多ねこ
大切な猫
LRN
NDG

参加者 34名(女性28名・男性6名)
延べ参加人数74名(女性56名・男性18名)